

# しんあい

季刊

2017年（平成29年）3月20日発行 第101号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人  
**多摩同胞会**

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10  
TEL042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、  
ブログを毎日更新しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>  
をぜひご覧下さい！



神田淡路町WATERRAS（ワテラス）に散歩。ここでは1年を通じて江戸情緒あふれる花々を楽しめます。今はハナモモが満開です。（かんだ連雀）

#### 泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター  
泉苑ケアセンター

#### 緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- あさひ苑
- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑  
高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市高齢者住宅うらら多磨

#### 神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者  
在宅サービスセンター
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ  
相談センター

#### 児童福祉

- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・母子生活支援施設網代ホームきずな
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

- ・ 網代ホームきずな  
70周年
- ・ 平成28年度の新企画
- ・ 施設だより  
「始まり」

# 網代ホーム きずな 70周年

## 網代ホームきずなの歴史

昭和20年	10月	中城イマ理事長、母子寮建設を目指し活動を開始。財団法人多摩同胞会設立を申請
21年	12月	上野周辺に浮浪する母子を収容保護する目的をもって、「網代母子寮」を開設。 東京都長官より財団法人多摩同胞会として認可される。母子ホーム定員30世帯、託児所100名
22年	1月	社会事業施設（保護施設）として認可される（定員42名） 東京都と木造平屋建て225㎡の無償賃貸借契約を締結する。
23年	3月	収容人員95名、前年度の約2倍
	12月	上野地下道に集う母子を保護するため「かりこみ」を実施
24年	1月	東京都網代母子寮の母親のための授産施設を開設
25年	3月	現在人員150名、学童39名
26年	6月	お年玉年賀はがきによる共同募金配分金（26万円）にて1棟増築、定員200名となる
27年	5月	財団法人から社会福祉法人へ組織変更 第一種社会福祉事業、(1)更生施設 網代母子寮 (2)授産施設 網代母子寮授産場
30年	2月	東京都網代母子寮診療所の開設許可
	10月	東京都網代母子寮水道敷設、浴場改修
30年	4月	東京都と運営委託に関する契約を締結。東京都保護施設（更生施設）網代母子寮 定員200名
	5月	老朽居室の改修と防災用貯水池を建設（80㎡）
35年	1月	東京都保護施設再建整備計画により、更生施設から生活保護法による宿所提供施設に変更認可される。
37年	1月	炊事場を改築
40年		児童福祉法による母子寮となる。
42年	3月	全面改築第1期工事完了 第2期改築工事（定員50世帯、157名）
43年	3月	全面改築第2期工事完了
44年	4月	授産場廃止
48年	2月	東京都母子緊急一時保護事業を東京都より受託 定員8世帯（50居室のうち8室を利用）
54年	3月	浄化槽全面改造工事完了
56年	8月	東京都網代母子寮敷地（崖）購入（山林 1, 474㎡）
57年		作業場兼集会室の新装改築工事完了
58年	4月	地域交流事業の取り組みを始める。
59年	4月	大規模修繕工事開始（居室拡大）
61年		大規模修繕工事完了。50世帯から40世帯に定員変更
62年	4月	寮母の名称を母子指導員に変更
63年	4月	夜間警備員1名配置される
平成4年		老朽化と共に生活様式、住宅事情の変化に対応して改築工事基本設計終了
7年		第1期改築工事に伴う仮設建物建設
8年	7月	第1期第2居住棟・保育棟改築工事、管理棟改修工事終了
9年	3月	第1居住棟内部改修工事終了。電話取付工事終了
10年	4月	児童福祉法、東京都児童福祉施設条例改正により名称を「東京都網代ホームきずな」に変更
13年	4月	入所方式が「措置」から「利用」に変更
18年	4月	指定管理者制度に移行（東京都より5年間の指定管理者となる）
23年	4月	東京都から法人に民間移譲され、母子生活支援施設30世帯 緊急一時保護事業10世帯名称を「網代ホームきずな」に変更
25年	4月	定員30世帯から20世帯に変更
26年	10月	第1居住棟（A棟）解体工事開始。緊急一時保護事業を5世帯にする。



遺跡調査（縄文時代・住居跡）  
〈写真：東京都教育委員会所蔵〉

**7000年前から、ここは生活の場**

あきる野市内では、100か所以上の遺跡が確認されています。そのなかで、きずなのある網代地区でも、数多くの遺構（住居の跡や墓など）が見つかり、調査されています。網代地区に広がる門口遺跡は、縄文時代早期（今から7000年前！）、中期（今から4000〜4500年前）の集落の跡で、4万㎡におよぶ広さです。縄文時代だけでなく、平安時代（今から1000年前）、そして江戸時代の住居跡や畑の跡が発見されています。

平成7年の調査では、16軒の竪穴住居跡が見つかりました。平成27年には、二次調査が行われ、15軒の住居跡や、墓、縄文土器、縄文石器、戦争中の防空避難壕が発見されています。縄文時代から、戦争中、現在にいたるまで、たくさんの人々が居住した網代地区。

施設の前に立つと長い歴史の流れを感じ、それぞれの時代に必死に生きてきた人の営みに思いを馳せることができます。きずなもまた新たな歴史を刻むことに誇りを感じています。

〈参考資料：あきる野市教育委員会「郷土あれこれ」〉  
（今野晴香）

網代ホームきずなは1946年（昭和21年）に開設し、それから70年。まさに法人発祥の地、原点となる施設です。これまでのあゆみと「きずな」のこれからについてお伝えいたします。

### きずなのあゆみ

昭和21年12月13日初代寮長（施設長）となった故元中城イマ理事長は、戦後残された母と子の絆を断ち切つてはいけないという強い思いで、西多摩郡増戸村字網代（現在のあきる野市網代）に網代母子寮（現在の網代ホームきずな）を開設しました。

（昭和28年12月には府中市に姉妹寮として白鳥母子寮を開設しました。）

昭和48年には東京都の委託事業で、すぐにでも保護が必要な母子のための緊急一時保護事業を開始しました。

平成23年4月からは、民間の施設として新しく生まれ変わり、現在は定員20世帯・緊急一時保護事業5世帯で運営し、あきる野の恵まれた自然の中で、自立の意欲がわき立つような支援を目標にしています。事業内容は、お母さんへの支援、学童への支援、保育児への支援、緊急一時保護事業のほか、地域の自治会や子ども会活動を通じていろいろな行事を一緒に開催しています。また、多くのボランティアにも支えられています。

平成10年児童福祉法改正により「母子寮」は「母子生活支援施設」となり、「網代母子寮」は「東京都網代ホームきずな」に変わりました。今まで、支援してきたことは「サービス内容」となり、利用者も自立のためにどのようなサービスを受けられるかを選ぶ時代となりました。

単身家庭の貧困問題や子どもの虐待、DV問題等々、母子家庭を取り巻く課題が深刻化している現状を見ると、母子生活支援施設は、「母子と一緒に生活しつつ、共に支援を受けられることができる唯一の児童福祉施設」という貴重な特性を最大限に活かす、更なるサービス内容の充実が求められています。

また、70周年記念事業のタイトルにもあります「子どもたちが安心して暮らせるまちづくり」を目指し、子どもの声・養育者の声を聴きながら地域に開かれた施設づくりに変革していきます。

そして、4ページの通り現在全面改築に向けて工事が始まっています。ハードソフト共に新たな「きずな」に生まれ変わります。

（次長 岩田 昭子）

### 法人創立70周年事業〈記念講演・シンポジウム〉

平成29年2月23日にあきる野ルビアホールにて『子どもたちが安心して暮らせるまちづくり』〜あきる野市の子育て支援を考える〜をテーマとし、記念講演とシンポジウムを開催しました。

第1部では「子どもの力、家族の力、地域の力」と題し、明治学院大学学長松原康雄先生に記念講演を頂きました。子育て支援にかかわる基盤とし「協育」の姿勢・地域ぐるみで子どもを育てるキーワードとし、子育てをしやすい街、子どもが豊かに育つことができるまち、すべての住民にとって暮らしやすい街が望まれることが伝えられました。

第2部のシンポジウムでは今後の子育て支援についてあきる野市子ども家庭部子育て支援課長町田加奈枝様、あきる野市民生児童委員協議会会長溝口正恵様、府中市子ども家庭支援センターたつちセンター長畑山恭子の3名をシンポジストとして迎え、コーディネーター松原康雄先生のもと意見交換が行われました。地域で親子を見守る重要性など少しの事柄にも耳を傾け、情報をいち早くキャッチしながらあきる野市を支える必要性が感じられました。

当日は約90名近くの方々にご参加頂き、誠にありがとうございました。

今後も地域の皆様への感謝と初心を忘れる事なく、一歩一歩進んで行きたいと思っておりますので、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

（係長 宮城 晋）



記念講演



シンポジウム



あきる野市澤井市長のごあいさつを町田課長が代読されました



来場者のお子さんの保育も実施しました

# きずなのアルバム 法人35年史 50年史、60年史より



開設当初の施設利用母子。子どもたちはすでに高齢者になられています。

東京都児童施設連合運動会に参加。先頭に立つのは坂本寮長。(昭和24年)



朝日新聞厚生文化事業団による健康診断の方々が1泊されました(昭和27年)



母の日に子どもたちからのプレゼントはホットケーキにフランクフルト!



地域敬老会への参加は20年以上続いています。



平成7年  
施設長 細井松太郎

昭和55年  
施設長 坂本 巖  
(現名誉理事長)



平成28年  
施設長 近藤政晴



平成18年  
施設長 松本恒明

# 網代ホーム きずな 70周年

きずなのこれからの「住まい」

1. 東京都の受託事業から  
指定管理受託へ、そして民設民営へ  
東京都網代ホームきずなは、平成18年に東京都より指定管理者として法人が受託運営してまいりました。東京都の都立施設の民間移譲の方針のもと、平成23年度から、社会福祉法人多摩同胞会の母子生活支援施設として改めて認可され、母子生活支援施設定員30世帯、緊急一時保護事業10世帯で事業運営を開始しました。

民間移譲の契約(条件)として、築35年以上経過している建物については、民間移譲後5年以内に建替える必要があり、法人として施設整備の検討を始めました。

その後、網代ホームきずなの施設整備について、東京都と協議を進め平成25年度には母子生活支援施設の定員を20世帯、緊急一時保護事業を5世帯に施設運営規模を変更しました。

2. 新たな施設を目指して  
平成25年8月頃から、施設整備の基本構想について東京都と協議を重ね、現状からの課題、施設設備・運営の体制強化等、課題解決に向けての提案を行い、その後何度も東京都と協議を重ねた結果、平成26年10月に法人の提案する施設整備計画(案)について、東京都の同意を得ることができ、具体的な施設整備計画の策定に入りました。

当施設職員、法人児童施設の職員、法人役員、理事長、常務理事、設計士からさまざまな意見や提案を受け、平成26年度末には、基本計画が決定され、基本設計、詳細設計を経て、平成28年8月に国・東京都から児童福祉施設等施設整備補助金の内示を受けました。

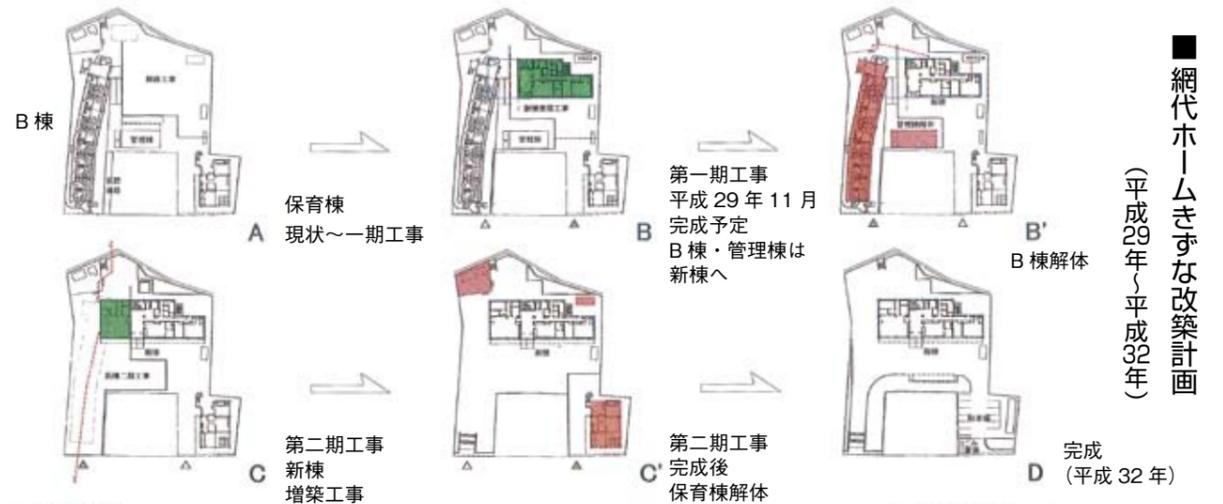
3. 新しい「きずな」へ  
長い間網代ホームきずなは、管理棟、保育棟、

居住棟(2棟)の4棟で施設運営を行ってまいりました。それぞれ棟の建築年度が違いため東京都と法人で何度も協議し、最終的に4棟を1棟にまとめて改築することになりました。平成28年度からの解体工事から、四ヶ年に渡る工事になります。

改築する新棟は延床面積約2,148㎡で、5階建の建物になり、エレベーターが設置されます。新棟は、母子生活支援施設(定員20世帯)、緊急一時保護事業(5世帯)、子どものショートステイ(1部屋)の施設整備、その他施設の基本サービスを実施するため必要な事務室、静養室、宿直室、施設内保育室、施設内学童保育室、学習室、地域交流ができる集会所、相談室、心理療法室、ボランティア室や職員の厚生室を設けます。

○ 居室  
網代ホームきずなには、多子世帯の利用者が多く入所しています。母子生活支援施設の居室は基準が変更になり一部屋30㎡以上になっているため、すべての居室を30㎡以上にし、その内10部屋は多子世帯用として40㎡以上の居室にしました。

○ 階別  
1階 事務所、静養室、宿直室、学童室(集会所①)、学習室、保育室、調理室、相談室、トイレ、キッチン  
2階 居室(6部屋) ショートステイ室、ボランティア室、心理療法室、集会所②  
3階 居室(7部屋)、キッチン、トイレ、集会所③  
4階 居室(7部屋)、キッチン、トイレ、集会所③  
5階 居室(7部屋)、キッチン、トイレ、集会所③  
(施設長 近藤政晴)



工事工程	2017年												2018年												2019年												2020年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新築住棟 第1期工事	B																																						
管理棟・B棟解体撤去工事													B'																										
新築住棟 第2期工事													C																										
保育棟解体撤去工事																									C'														
場内設備整備・外構工事																																					D		

## 平成28年度の新しい取り組み

平成28年度も多摩同胞会では地域のみなさまをつなぐ  
あたらしい企画に取り組みました。

緑苑安心シニア塾「安心づくりコース」が開講しました

緑苑安心シニア塾（シニア層向けの安心して老いるための教養講座）は、平成25年度に開講し4年目となりましたが、平成28年度基礎講座の最終回に実施したアンケートには、「困ったときに気軽に頼める相手がいない」「相談相手がいない」「災害の時」に不安があるという回答がありました。

また、各講座後の交流会でも「自分たちが地域で安心して生活していくために何かしなきゃと思っているのだけれど、何をしたらよいかわからない」というご意見も毎回お聞きし、安心できる地域づくりの必要性を確認し、基礎講座、専門講座に続いて「安心シニア塾・安心づくりコース」を開講することになりました。

4年間の受講者全員に開催通知をお送りして初日を迎え、誰も来なかったらどうしたらよいかと心配をしていたところ、30人を超える方にご参加いただきました。案内状について「こんな素敵な招待状をもらったら来ないわけにはいかないじゃない」というお言葉にスタッフ一同感謝感激の一幕でした。

参加した方からは「もっと人と接する機会を持ちたい」「まわりに関心をもたなければいけない」「地域でできることになげたい」「コミュニケーション技術は近所での気づきに使いたい」等の活発なご意見がありました。

（あさひ苑地域包括支援センター長 清野哲男）



開催日	講座内容
平成29年2月2日(木)	総論～本コースの狙いや進め方を共有します～
平成29年2月16日(木)	コミュニケーション技術の共有
平成29年3月2日(木)	活動事例の報告とこれからの活動の検討
平成29年3月16日(木)	今後の活動についての意見交換

ワンちゃんでも、お年寄り、地域でつながる

今年度、しらとりと泉苑の合同行事をさらに充実させる新たな取り組みとして「わんわんパーティー」を5月29日と7月22日の2回実施しました。1月は、12犬種17匹と17名の飼い主のボランティアの方々26名の介助等のボランティアの方々をサポートによりたくさんの方々と触れ合う賑やかな機会になりました。犬は身近な動物ですが、こどもたちもお年寄りも普段なかなか接することができない様々な種類の犬に興奮し、豊かな表情を写真に残すことができました。

始めはすこし戸惑っていたご利用者とボランティアさんからは、

「犬がいることで関わらなってきたが、逆に犬とご利用者の関わりを見て癒された」

などと感想をいただきました。犬がいることで、場が和み、癒しと笑顔、喜びを皆で共有することができました。

しらとりの利用者も、泉苑の高齢者も地域の一員です。みんながつながることで、安心して暮らせる地域ができていくと思います。

（しらとり 山中有佳）



## 施設 だより

### 始まり

連雀

### すべては始まり

暖かい日差しに春の訪れを感じ、心が弾みます。その「春」といえば新生活や新学期など始まりの季節でもあります。

私が従事している訪問介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、訪問介護が今年でサービス開始7年目、定期巡回・随時対応型訪問介護看護は今年で4年目を迎えました。

さらなる発展と充実したサービス提供のため、昨年10月に明るく広い2階フロアへと移り、デイサービス、看護、入浴の他部署の皆さんとご一緒させていただくことになりました。

静かな地下から一転して賑やかで活気あるフロアへと移り、はじめは不安や戸惑いもありましたが、フロアに訪れる利用者さんの微笑ましい会話が聞こえたり、普段見られない様子を見ることが出来て、今ではとても心地良く想像以上に良いスタートを切ることができました。

また、在宅サービスは地域の特性が色濃く出ます。「神田」という地域は、古き良き老舗有名店と最先端の高層ビルが建ち並び、新旧の文化が入り混じった街です。そんな独特の街なのに、とても人情味あふれているのも特徴です。この街の皆様と触れ合う度に、我々がこの街に支えられているのだと日々実感しています。

春の風のように気持ち良く一日が始まるよう、今後も神田の街の皆さんと笑顔で接するよう心掛けたいと思います。

ホームヘルパー（介護福祉士）和泉 久美子



あさひ苑

### 新しい看護の仲間

あさひ苑2階の医務室（ナースステーション）は、ご利用者の居住空間が見渡せる明るく開いた造りになっています。医務室の中で仕事をしているとご利用者の様々な様子が分かります。「ゲホッ、ゲホッ」と、せき込む様子、むせ込んでいるような声、「ガタッ！」と音がして「ハッ」とするようなどです。

また、ショートステイの利用者が「ここに泊まっている事を家族は知っていますか？」

「いつ頃、帰れますか？」

ホームのご利用者が

「この頃、便が出ないんです。」

「足が痒いので薬はありませんか？」

「目が痛みます。」等、気軽な様子で声をかけてくれます。

その都度、「安心してください。大丈夫ですよ。」と返事をしたり、点眼や軟膏を塗布したりしています。時には、私たち自身が、飛び出して様子を見に行く事もあります。気の休まらない日々が、正月の御雑煮から12月の餅つきまで続きます。

幸いな事に新年早々、看護職員が新たに入職し、平均年齢がぐくぐくと若くなりました。職場の雰囲気もより一段と明るくなり、働き易くなりました。今年も利用者の皆様の生活が「安全・安心・安楽」に過ごせるように健康管理を充実させ、新しい看護の仲間と共に、事故防止に努めていきます。

（看護師） T・O



### たっち

## 13年目の春を迎えて

年度末のこの時期は、春から小学校や幼稚園、保育園へ入学するお子さんたちの、たっち卒業シーズンになります。小学生になるとひろげには入館できなくなるので、スタッフは寂しさもありますが、お子さんたちの「新たなスタート」を見送ることができてとても嬉しい気持ちになります。たっちはこの春で13年目を迎えます。開設当時利用していたお子さんの多くはすでに中学生、高校生になっていきます。毎年行われる「夏のボランティア体験」でやってくる学生さんや、ボランティア希望で訪ねてくる学生さんが「以前たっちで遊んでいました！」と言ってくれることがよくあります。世代を超えて「子育ての知恵」を伝えていくという「パトントッチ」の意味も込めてつけられた愛称の「たっち」ですが、見守られる側から見守る側へのパトントッチも少しずつ進んでいるようです。

総合相談受付担当

（社会福祉士・精神保健福祉士）長岡 愛



### きずな

## 変わりゆくななかで…

改築工事に伴い、日々違った姿になっていく「きずな」を見ると、新しいはじまりに、期待を寄せ一方、どこか寂しさを感じています。そんななか、変わらないのは、「きずな」は、母子の絆を断ち切ることのない支援をする場であるということ。母子が一緒に過ごすことで育まれる絆や思い出が、懐かしくあたたかいものになるよう、職員は、日々試行錯誤しています。

新たな取り組みに、今年度は利用者の声に答え、親子料理教室を開催しました。日頃、忙しさから、一緒に食事を作り、味わってゆっくり食べることができない母子にとって、有意義な時間となりました。



数年後に、「きずな」は、また新たな姿になっています。それでも、利用者の声に耳を傾け、新しいことに挑戦していく姿勢は変わらず、今後も母子にとって、来てよかったと思ってもらえるような、そんな施設を目指していきたいです。

母子支援員（社会福祉士） 今野 晴香

### しらとり

## よいいはじめ

受験シーズンに入り、多くの子にとって高校受験が人生初めての受験になります。しらとりの学習サポートサロンには現在8名の中高生がおり、今年受験を迎えた子もいました。学習サポートサロンの時間内に受験対策の作文や面接対応などを取組んでいます。

高校の特徴や将来の夢、高校ではどのような取り組みたいかなどの質問や作文の課題を、職員も自身の受験生だった頃のことを思い出したり、現在の高校受験の傾向を調べ、一緒に考え、時には子どもたちより職員の方が熱くなることもあります。

しかし、年が明けてからは子どもたちにも少しずつエンジンが入り「この文章はどうかな」「面接官に「伝わるかな」「自分でできるから（大丈夫）」とそれぞれ子どもたちの頑張りを見せてくれるようになってきました。

それぞれの進路に向かって子どもたちの始

まりがいつも楽しく夢のあるものであってほしいと職員とボランティアの皆さんで願う日々です。

母子支援員

（社会福祉士） 嶋田歩



### 緑苑

## 新しい生活をともに

緑苑ではたくさんのお会いがあります。新しいご利用者をお迎えすることもそのひとつです。

緑苑のお仲間になられたAさん。ここでの生活が始まったころ、お食事の時になんだか体が斜めに傾いているようで少しごはんが食べにくそうでした。そこで私たち機能訓練指導員が体の状態をみさせてもらい、座っている椅子を工夫しました。それによりAさんは以前より食べやすくなり、「この方がいいわ」と素敵な笑顔をみせてくださいました。今では他のご利用者と一緒に定期的に体操に取り組まれるなどして、笑顔で過ごされています。

お一人おひとりのもっている力をしっかりと捉えて関わることで、ここ緑苑で出会った方々により快適な生活を送っていただき、いつまでも元気で過ごしていただけたら嬉しい限りです。

機能訓練指導員（理学療法士） 青木雅子



### 岩本町

## 綺麗な花を育てます

ご利用者のHさんが居室でシクラメンを育て始めました。そのシクラメンの鉢植えは、水遣りだけでもたくさんのお花が咲いたそうです。そこで、Hさんは、ケアハウスのみんなに見てもらおうと食堂に持ってきてくれました。ケアハウスの利用者にとって、食堂に一同に会する時間は、食事だけでなく利用者同士、ご近所付き合いの大切なひとときでもあります。そんな食堂には、それぞれの居室で咲いたお花や、自身で作った折り紙等を飾っています。



そこに新しく、Hさんのシクラメンが仲間入り。「私の部屋は日中、太陽の日が入るから、それだけで元気になるのよね」と。

安く購入したものに、もかかわらず、たくさん咲いたため「元が取れた」とHさんが取れた」とHさん。

他の方も「もっとたくさん咲かせたら、もっと元が取れるわよ」と笑顔で話しています。

今回の花が咲き終わったら、次は初めて肥料をやってみるわ、と意気込んでいました。

来年度の目標がたった「コマです」。

ケアハウス（介護福祉士） 白石 恵美

### 泉苑

## ケアマネジャーとしての始まりは…

泉苑居宅介護支援センターのケアマネジャーは、利用者のお宅に訪問し、契約を交わし、担当者としての業務が始まります。

住みなれた自宅で、その人らしく自立した日常生活が続けられるよう、ご利用者を中心に介護者や家族・医療関係者や介護サービス事業所、地域包括支援センター、民生委員、地域住民、ボランティアなどの力を借り、それぞれの役割を担いながら連携を図り、同じ目標に向かって支援していきます。

利用者一人では困難なことも色々な方の力を借りることで、失われた笑顔や言葉・食欲や身体機能までが回復され、本人より「泉苑に相談して良かった」と言われます。最近では「両親が以前お世話になって良かったから、自分もお願いしたい」と世代引き継ぎ担当ケアマネジャーになるケースが増えています。



居宅介護支援センター（介護支援専門員）

南 佳代

### ボランティア紹介

#### 岩本町ほほえみプラザ

#### ホッとあそびのひととき...

岩本町ほほえみプラザでは、スターバックスコーヒー神田駅前店の方々と交流会を、3か月に1度のペースで行っています。2月に行われた交流会では、おやつ作りのお手伝いをして頂きました。

スターバックスの方々と協力して作ったおやつと一緒にいただくのは、スターバックスのお店で出されているのと同じ、本格的なコーヒー。お部屋いっぱいコーヒーのいい香りが広がり、普段とは違った特別なおやつとなりました。

(岩本町ほほえみプラザ 木村 優佳)



### 御寄贈・御寄付ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

BI-Rサーティワンアイスクリーム株式会社 KCI GROUP 株式会社キッズニア東京 Kトレディング株式会社 浅川潤一 網代和夫 ㈱アップルファーム 五日市保育園 一般財団法人日本出版クラブ 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 上野恒章 江田廣子 大沢良三 小野塚絹代 小野塚真 川杉稔 岸豊子 木下 美彦 ㈱協和 和ふわり基金 健康麻雀の集い「無垢の会」会長長 桑田忠幸 公益財団法人報知社会福祉事業団 国際プロテニス 東京1府中 国際ソロプチミスト東京 あきる野 西條モモ代 坂本博治 佐久間廣太郎 清水三恵 浄土宗プロテニス 青年会 セカンドハーベストジャパン 田島信三 テレビ朝日福祉文化事業団 東京善意銀行 歳川ちえみ 永井文子 ㈱日本出版販売 日本フルート協会東京部会 日本レコード協会 東神田町会 平野美那世 三井物産株式会社 宮 峯慶蔵 宮本光春 武蔵府中法人会女性部会阿部芳子 明治安田生命 有限会社社庭商店代表取締役庭田和広 吉田ヒサ子 (2016年11月〜2017年1月)

### ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

会田久枝 青木晃子 青野まり 赤田恵美子 赤林好子 朝倉ミエ子 味噌明子 網代恵美 荒井迪子 荒波智子 有本陽子 飯田と志子 飯塚喜多子 飯利高子 囲碁を楽しむ会 石井久子 石井宏 石坂勝世 石坂トメヨ 伊集院撰子 市川アイ子 市川知子 一步の会 井出直子 井手睦子 伊東志子 井上智美 岩崎敏信 岩崎順 植松八千代 魚川桂子 内保三重子 内堀美喜 梅林治代 梅原薫 梅原光洋 ト部和子 上床庸子 遠藤伊代 遠藤みづよ 遠藤陽子 大倉弘子 大森庸子 太田久美子 大野文子 大原捷子 大室千里 大島幸子 大類浩平 緒方シゲ子 岡田基子 小川健治 荻野和子 荻野真理子 奥山亜子 奥山千千子 小倉富子 尾崎絃之 尾崎靖宣 尾崎ヨシ子 音楽園 おはなし夢くらぶ Ohana Hula Team 折田浩一 海江田紀久子 笠間豊子 鹿島キチ 鹿島千重子 船野美千代 片桐キミ子 カットサロンアベ 加藤栄子 加藤静 加藤規子 加藤美美子 加藤洋子 金指真美 金澤 静江 加藤武仁 蒲田芳枝 上沢美和子 神山しげ子 亀岡紀知信 川崎雅人 川村智子 菅田幸枝 菊地裕子 さずなの手 江戸川 北島美恵子 木谷教子 木森哲 清田敏子 具嶋郁子 國定毅 久保田摩耶子 久保紀子 隈元美恵 蔵内睦子 栗原宏子 黒川澄子 黒川トヨ子 弦間まさ 小石暁子 小磯光子 小出晨一 小出由美子 小岩井雅人 河内ともみ 石澤圭子 越川幸子 小島ユミ子 小島百合子 小菅よし江 後藤祐輝 小沼裕子 小林幸代 小林忠雄 小林照子 小林真真 小林道子 小林美代子 小林わか子 駒ヶ嶺奏秀 是永美代子 今野幸子 斎藤孝子 斎藤千枝子 佐伯ヨシ子 酒井和子 坂本越子 佐久間桂子 佐佐美枝子 佐藤イソ 藤藤公子 佐藤妙子 佐藤なほ子 佐藤初江 佐藤秀和 佐野田鶴子 椎名君代 塩澤佳津子 重田文子 宍倉フジ子 品田啓子 島津たか子 島田たず 清水文枝 清水光子 下江美鈴 下宏子 進藤サエ子 進藤登美子 新村信子 杉本節子 杉本真理子 杉山恵子 鈴木木アキ子 鈴木暉子 鈴木好枝 鈴木好子 瀬戸貞子 子ヨ子 瀧澤千登勢 竹内砂恵子 竹内由美子 武野純子 竹松ふく 田島みよ 田中久美子 田部美智子 玉木由美子 多摩マイル吹奏楽団 丹野由紀子 千葉よし 土屋とき枝 椿原量子 寺町律子 東郷實枝子 戸島正子 栃谷さき 中垣春代 長島広美 永田良子 中野渡とみ子 中村清美 中村フサ子 中村美佐江 中村恭後 中山寿美 那須史子 二胡とゆかいな仲間たち

### 訃報



石川國雄常務理事(事務局長)が平成29年2月27日に急逝されました。(享年79歳) 石川常務理事は、平成14年、監事に就任され、平成16年には理事に、平成24年からは常務理事として特に緑苑増築、うらら多磨の建設、また今回のきずなの改築にあたりご尽力いただきました。事務局長としても管理職・事務職を博識と豊かな経験に基づき指導されました。その暖かいお人柄を支えていただいたことを職員一同深く感謝申し上げます。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

毎年、満開の桜を見に行くのを楽しみにしています。あつとという間の一年だったなあとお返りながら、今年度も気持ちよく新たに頑張りたいと思います！ (たっち 星野幸子)

季刊しんあひ99号の表紙の法人設立70周年記念植樹の桜の木を毎日事務所から眺めています。2種類の桜が咲くのが待ち遠しいです。(しらとり 山中有佳)

桜を見ると、入職時のときどきさしていた気持ちを思い出します。よく考え、よく学ぶ、初心を忘れず、一日いちにちを大事に過ごしたいと思います。(きずな 今野晴香)

今年度、季刊しんあひの編集に携わり作成する過程で言葉の大切さを改めて感じた一年でした。(連雀 沢尻広広)

昨年は私事で卒園に入学とあつという間に桜の時期を逃してしまいました。今年はゆっくり花見を楽しみながら、今年度も花見を楽しみたいと思います。(事務局長 青木志乃)

今年度は、法人は創設71年目、リ・ボーン(再生)の年として前進しました。季刊しんあひも私自身も、チャレンジせず新しいことにチャレンジする年にならしたいと思っています。(編集長 上野 廣美)

介護に関するご相談は 無料ダイヤルで! ●泉苑 ☎0120-6540-24 老後支援24時間 ●あさひ苑 ☎0120-2942-24 福祉にっこり24時間

